

山陽オートレース場改修

# 平たんな競走路に

## 大成ロテック 情報化施工技術を活用

大成ロテックは、山陽オートレース場（山口県山陽小野田市）の改修工事で、平たん性に優れる競走路を完成させた。最新の情報化施工技術を活用し、アスファルトフィニッシャーを自動制御することで敷きならし精度

が向上。表層に特殊配合のアスファルト混合物を用い、透水性や滑り抵抗性を高めた。施工後に試走した選手からは「縦横の施工ジョイントで段差を感じることなく、平たんな走路」との評価を得たという。



トータルステーションを用いてアスファルトフィニッシャーを自動制御

山陽オートレース場は、山陽小野田市が所有し、日本写真判定（東京都千代田区、渡辺俊太郎社長）が運営している。競走路（1周500m、幅員30m）には、高速かつ安全なレースを展開するために優れた平たん性や透水性、滑り

抵抗性などが求められる。07年の改修から約8年が経過。透水機能が低下するなど走路面の劣化が進んでいた。

今回の改修工事（発注：日本写真判定）は競走路の性能向上が目的。路面の透水性と滑り抵抗性を高めるため、品質を重視して選定した舗装材料を配合した高安定度特殊開粒度アスファルト混合物を表層に使用した。混合物は防府アスコン（山口県防府市）で製造した。

平たん性向上には、最新の情報化施工技術を活用した。トータルステーション（TS）を用いた3次元マシンコントロールシステムによりアスファルトフィニッシャーを自動制御。混合物を敷き

ならすスクリードの位置座標を自動追尾式TSで測定し、施工位置とスクリードの高さを制御することで、敷きならし精度を高めた。施工後に平たん性を測定した結果、規格値1・0以下に対して、走行レーンの平均で0・5、黒潮ライン（選手が主に走行するライン）で0・58を確認した。

大成ロテックは、発注者や選手会と緊密に打ち合わせをしながら工事を進め、高性能の競走路を実現した。同社は今後も情報化施工技術を導入。熟練の施工ノウハウと最新の施工技術を組み合わせ、より優れた品質の舗装を顧客に提供していく方針だ。